

1. 科目名 (単位数)	体育 (幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2280						
2. 授業担当教員	濱野 ゆうり								
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義(実技で扱えない領域・保健領域)やディスカッション、グループでの発表を行う。	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>今の日本では生活習慣病の予防・改善や平均寿命の延伸などにより、運動やスポーツ、健康への関心が高まってきている。このことから、体育は生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するために重要な科目となっている。また、子どもの体力は低下しており、幼児や児童の体力向上のために体育は重要な位置づけとなる科目である。</p> <p>この授業では、小学校学習指導要領や幼稚園教育要領を踏まえ、教育現場で実際に指導を行える能力を学習していく。学習指導要領に応じて、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることができるようになるとともに、健康の保持増進、体力の向上を養うための技能や知識を身につけ、指導できるようになることを目的とする。また、幼稚園教育の現場で行われる運動を指導できるようにすることを目的とする。</p> <p>・幼稚園「健康」・小学校学習指導要領における「体育」の目標、内容の概要を捉え、「健康」および「体育」の位置づけを理解する。さらに各領域におけるおもな運動を実技を通して経験することで、その運動特性を自身の身体で捉え、健康・体育指導に必要となる最低限の技能を身につけることができるようにする。具体的には以下の①②に示す通りである。</p> <p>①正しい運動の方法を理解し、正しく運動ができるようにする。 ②ただし各種運動を指導するためのポイントを押さえ理解する。</p> <p>・さまざまな子どもたちにおける個に応じた実技指導やその評価計画について理解することができるようにする。</p>								
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 今日までの幼・小の体育授業の位置づけについて理解することができる。 小学校体育指導に際しては、各運動領域における必要最低限の運動技能を身につけることができる。 幼稚園教育の現場で行われる運動については、正しい指導ができるとともに基本的な運動の模範を見せることができるようにする 体育指導を行う上での教師の留意事項や基本的な役割を身につけることができる。 								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【課題レポートとして】①子どもの健康問題と身体運動の科学を学んだうえで、教育現場において体育の授業がどうあるべきか自分の考えを述べる。②指導案の提出 (詳しくは、講義で指示する)</p> <p>【実技試験として】模擬授業 (運動プログラム・指導案の作成と実践) 計画・教材づくり・実践・振り返りまでを含む。</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】適宜ワークシートや学修資料を配布する</p> <p>【参考書】幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館 2018 小学校学習指導要領(平成 29 年告示)体育編解説 文部科学省 2017 幼児期における運動遊びの指導 杉原隆・河邊貴子編著 ミネルヴァ書房 2014 小学校体育これだけは知っておきたい「低学年指導」の基本 白旗和也 編 東洋館出版社 2020</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 幼稚園教育の現場で行われる各運動領域における必要最低限の運動技能を身につけることができたか。 幼稚園教育の現場で行われる運動については、正しい指導ができるとともに基本的な運動の模範を見せることができるようになったか。 運動遊びの指導を行う上での教師の留意事項や基本的な役割を身につけることができたか。 <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加態度</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>2. 課題レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>3. 実技試験</td> <td>30%</td> </tr> </table> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。</p>			1. 授業への積極的参加態度	50%	2. 課題レポート	20%	3. 実技試験	30%
1. 授業への積極的参加態度	50%								
2. 課題レポート	20%								
3. 実技試験	30%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>・15 回の授業内容を記録するためにノートを用意することが必要です。最終授業で提出を求めます。</p> <p>・指導案の作成と実践には、しっかりと時間を割き、資料収集を十分に行ってください。実践準備は、授業内だけで完結することは困難です。グループでの検討や作業は授業時間外の準備を怠らないことを望んでいます。この活動は、評定の方法の「授業への積極的な参加態度」に反映します。</p> <p>・常に、教員として子どもや保護者の前に立つことを意識し、頭髪や服装等の身支度を整えてください。また、実技の際には、運動にふさわしい服装 (ジャージ、T シャツ等。ジーンズ禁止) で参加しましょう。</p> <p>・グループワークや模擬授業など、実践を通じた授業を実施します。遅刻や欠席の無いよう、自身の健康にも十分気をつけてください。</p>								
13. オフィスアワー	初回の授業で周知する								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	オリエンテーション 現代社会と体育・スポーツの役割	事前学習	ノートを 1 冊準備し、各回の学習課題を記録する。 日本国憲法第 3 章国民の権利及び義務の第 25 条と世界保健機構 (WHO) 憲章「健康」の定義を調べ、自身の考えを加えて考察する。						
		事後学習	グループワークの内容、授業内容をまとめ「健康の意義」について 600 字程度でまとめる。						

第2回	子どもの運動環境の現状と我が国の体育・スポーツ基本的施策について	事前学習	「スポーツ基本法」(2011)の基本理念8項目を調べる。
		事後学習	自分の出身地や住んでいる地域の「スポーツ施策」を調べる
第3回	身体運動と健康 ～健康と体力・身体運動と生活習慣病の予防について～	事前学習	第2回の事後学習を発表できるようにまとめる。
		事後学習	子どもの健康にとって必要な環境条件をまとめる。
第4回	発育と発達 ～子どもの発育発達と身体運動の影響について～	事前学習	スキヤモンの臓器別発育曲線を調べ、ノートに描き、概要をまとめる。
		事後学習	幼児にとっての運動の役割と効果について考察する。
第5回	幼少年期の運動の基本	事前学習	幼児期運動指針(文部科学省2012)の概要をノートにまとめる。
		事後学習	小学校学習指導要領(平成29年告示)体育編より、「1,教科の目標」を調べ、ノートに写し、その内容を理解する。
第6回	集中実技①体づくり系運動あそび	事前学習	子どもの体操(リズム体操、こども体操)を覚え、実践できるように練習する。
		事後学習	体力とは何か?体力の構成要素を調べる。また、毎時、実施した運動遊びは必ずノートに記録する。
第7回	集中実技②器械運動系の基礎と運動あそび	事前学習	マット遊びを3つ考え、図に描いてくる。また、器械運動の実技ができるよう自身の身体の準備をしておく。
		事後学習	実施した運動遊びをノートに記録する。
第8回	集中実技③陸上運動系の基礎と運動あそび	事前学習	走る・跳ぶ遊びを3つ考え、図に描いてくる。また、走る・飛ぶことができるよう自身の身体の準備をしておく。
		事後学習	実施した運動遊びをノートに記録する。
第9回	集中実技④ボール運動系の基礎と運動あそび	事前学習	ボールやフープを使用した運動遊びを3つ以上考え、図に描いてくる。
		事後学習	実践に向けて、グループで役割分担とする。
第10回	運動プログラムの実践① 体づくり運動あそび:運動プログラムの発表	事前学習	グループごとに運動プログラムを作成し、発表するための準備を行う。
		事後学習	発表された運動プログラムを記録する。
第11回	運動プログラムの実践② 器械運動系の運動あそび:運動プログラムの発表	事前学習	器械・器具を使った運動遊びの指導案を作成する。
		事後学習	指導案を提出する。
第12回	運動プログラムの実践③ 陸上運動系の運動あそび:運動プログラムの発表	事前学習	走・跳の運動遊びの指導案を作成する。
		事後学習	指導案を提出する。
第13回	運動プログラムの実践④ ボール運動系の運動あそび:運動プログラムの発表	事前学習	水遊びの指導案を作成する。
		事後学習	指導案を提出する。
第14回	集中実技⑤表現運動系の基礎とグループ発表	事前学習	表現・リズム遊びの指導案を作成する。
		事後学習	これまで体験した運動プログラムをノートに記録し考察する。
第15回	幼児期・児童期の体力測定と評価について ～安全な運動の実践に向けて必要な点～まとめ	事前学習	幼児の運動能力測定の種目と判定基準を調べる。
		事後学習	15回分の記録をしたノートを提出する。
15.実務経験を有する 教員特記事項	中学校および高等学校の保健体育科「保健分野」及び「体育分野」の担当教員として、また、幼児体操教室の講師としての実務経験を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		